

古民家の野外博物館

日本民家園だより

平成2年度第2号

《通号第21号》

発行 2・8・1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区枳形7-1-1

電話 (044)922-2180~1

印刷 株式会社エイシン

動力源に使われた水車小屋

- 水車小屋
- 木造、平屋、寄棟造
- 平面積 19.01㎡
- 旧所在地 長野県長野市大字
上ヶ屋蟹沢451
- 昭和45年10月 小池忠治氏より
川崎市に寄贈
- 昭和46年3月 解体工事着手
- 昭和57年3月 移築復原完了

◆ 精米や精粉をした 動力水車

自然の水流を利用して動力源とする水車の歴史は古く、ギリシアなどではB.C.1世紀ごろの文献にすでにあらわれているといえますし、我国でも古くからあったと思われます。しかし最近ではこれにかわる動力源が簡単に得られるようになったため、ほとんど姿を消してしまい、今では逆に一部に自然利用運動の一環として新しく作るむきもあるようです。

今回紹介します水車は、長野市内といっても戸隠へ向う国道207号線より少し左寄りに入った山村の一隅にあったもので、小屋の大きさは、4.5m×4.2mであり、水車も直径3.6mもあって規模の大きいほうに属します。

建築年代は、使用材の風蝕程度よりみて、江戸時代末期であろうと推定されます。

もとの水車は、いたみがひどく再用できませんので、まったく同じ工法・構造で新しい材料に取り替えましたが、もともと小屋にくらべて



水 車 小 屋

早くいたむためか、水車だけ後から取り付けられるような工法・構造になっています。

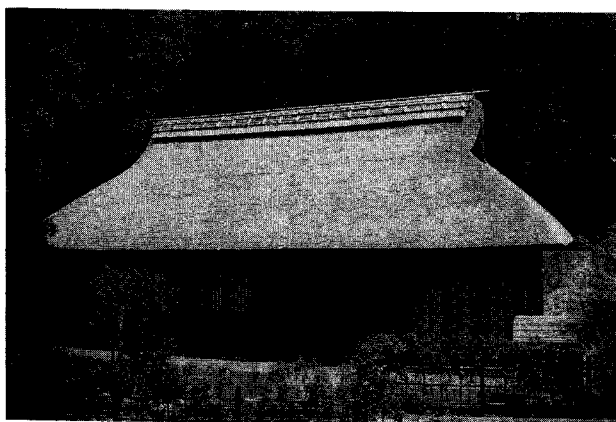
小屋内部には木製の歯車によって伝導された製粉用の挽臼が1基、精米用の石臼が2基、わら打ちが1基と4基の機構があり、規模の大きさがわかります。これらの機構は後世に取替えられたものもありますが、動きますので修理してそのまま使いました。

小屋のまわりは、現地の地形を模して水路をつくるなど修景をして、地下貯水槽から循環式で水流をつくり、上掛け式で車輪を回して、日本民家園では初めての動く民俗資料として見ていただいています。

◆ み どころ

- 水車小屋内部の動力伝達機構のしくみ
- 規模の大きな車輪

旧岩澤家住宅、公開はじまる！



移築復原された旧岩澤家住宅

昨年度来続けられていた旧岩澤家住宅の移築復原工事がこのたび完了し、7月26日(木)より一般公開が始まりました。

旧岩澤家住宅は、もと神奈川県愛甲郡清川村にあった上層農家の住宅で、17世紀の終わり頃に建てられたと推定されています。構造的にかなり古い形式をとどめており、昭和61年には神奈川県の重要文化財に指定されました。

なお復原場所は、園内蚕影山祠堂(18番)の脇です。(下図参照)是非見学にいらして下さい。お待ちしております。



園の動き

◆ 『日本民家園まつり』開催 <5/2~31>

期間中は、恒例の民俗芸能公演をはじめとして、民具着用体験、古民家みどころ紹介、民具手づくりコーナー、民俗資料の展示を行ないました。特に民俗芸能公演は昨年引き続き天候に恵まれ、多くの方に熱演を見ていただくことができました。

◆ 民具づくり教室—竹細工—開催 <6/16, 23, 24, 30>

お知らせ
11月3日(土)は、年に一度の無料開園日です。秋の一日、文化財に触れてみませんか？

参加者の方には、日を追って難しい作品に挑戦していただきました。なかなかの力作ができていました。

◆ 平成2年度第1回日本民家園協議会開催 <7/18>

◆ いろりへの集い—川崎の昔の生活を探る—開催 <7/29>

年中行事展示

◆ 盆行事 <8月中>

オショウロウダナなど、川崎周辺のお盆の様子を展示します。

◆ 十五夜 <9月中>

お団子や里芋、すすきなどで、お月見の展示をします。

◆ 刈りあげ <10月中>

新しく刈り取った稲を神様にお供えし、その年の収穫を感謝する展示をします。

あなたも参加してみませんか

厳しい暑さがまだまだ続いています。民家園では8月から10月まで、いろいろな催し物を開催して皆様のお越しをお待ちしております。下記の要項をご覧の上お申し込み下さい。

◆ 体験学習一郷土玩具作りー<8/19

(日)> ○内容 水鉄砲などの竹細工 ○対象 当日入園の方 ○会場 旧作田家住宅前庭

◆ いろいろの集い<8/26(日)>

○内容 足中ぞうり作り ○定員15名
○教材費 300円 ○申し込み 8月19日(日)午前9時から電話で先着順

◆ いろいろの集いー川崎の昔の生活を



探るー<9/16(日)> ○内容 おばあちゃんから聞く食事のはなし ○定員 15名 ○申し込み 9月2日(日)午前9時から電話で先着順

◆ 体験学習一十五夜ダンゴ作りー<9

/30(日)> ○定員 25名 ○教材費 300円 ○申し込み 9月16日(日)午前9時から電話で先着順

◆ いろいろの集い<10/28(日)>

○内容 和風・どんぐりゴマ作り
○定員 15名 ○教材費 300円
○申し込み 10月14日(日)午前9時から電話で先着順

旧岩澤家住宅の発掘調査

— 古民家と考古学 —

前ページで紹介しました旧岩澤家は、日本民家園内へ移築する以前に旧所在地である清川村煤ヶ谷において解体作業が行われましたが、その際、家の跡地部分に対して考古学的方法による発掘調査も併せて実施されました。

古民家に関する考古学調査は、多くの場合民家を解体した後に、その跡地を発掘しデータを得ることから始まります。

では、民家が建っていた跡地を掘ってみるとどのようなことが判るのでしょうか。これまでの発掘調査では、主として次のようなことが判明する場合があります。① 民家を建てる前に行われた基礎工事(地面を平らにするため削ったり、盛土をする。地面を固めるなど。)の跡が現れる。② 民家に住んでいた人々が使ったと思われる陶磁器の破片や農機具の部品などが出土する(発掘した際に出てくるものを「遺物」といいます)。③ 解体した民家が建てられる以前に存在した、別の建物(「前身建物」といいます)の痕跡が現れる。

こうしたことから、民家が建てられた頃の土木建築技術や生活用具などが明らかにされ、当時の人々の暮らしを考える上での貴重な資料がもたらされるのです。

日本民家園では、これまでに旧伊藤家、旧北村家、旧作田家、旧太田家、旧工藤家の各民家について解体移築に際し跡地の発掘調査を実施してきましたが、このうち旧伊藤家および旧太田家では、前身建物の存在が確認されています。また、冒頭に述べた旧岩澤家住宅の発掘調査では、遺物や前身建物の発見はありませんでしたが、地面の整地跡や柱の礎石の据え付け状況の詳細が確認でき、相模地方における近世民家建築の技術の一端が明らかにされました。

このように、考古学は、建築学や民俗学・歴史学とともに古民家研究の一翼を担っているのです。



旧岩澤家住宅跡地の発掘風景

園内の石造物案内(7) — 石で造られた塔「五輪塔」 —

石塔とは石で造った塔です。つまり石造りの塔を意味します。ところで塔とは、仏を礼拝したり供養したりする施設です。ですから石塔とは、仏を礼拝したり供養したりするための石造りの施設であるということになります。

このようなことに注意して、石塔にはどのようなものがあるのかを見てみますと、板碑・五輪塔・宝篋印塔・宝塔・多宝塔・石幢・無縫塔などがあることがわかります。今回は、五輪塔のことを考えてみることにしましょう。

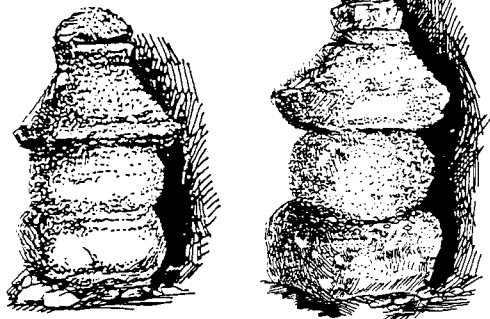
五輪塔は、五つの要素から成っている石造物です。地・水・火・風・空の五つの要素をかたどった石造物を下から順に積み重ねて、一つの建造物としたものです。

それらはそれぞれ、下から方形・円形・三角形・半円形・団形の五つから成っています。(右図参照)

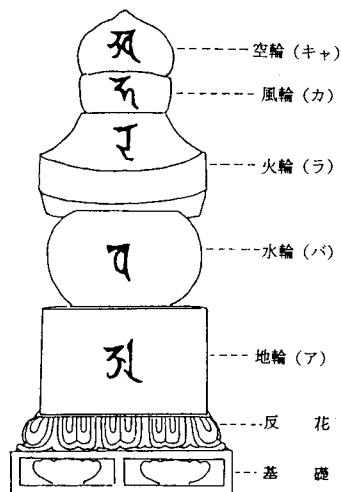
宇宙は地・水・火・風・空の五つの要素から構成されており、人間の身体もこの五つの要素から成っているものであるという仏教の思想が、五輪塔造営の背後にあります。この思想にもとづいて、この要素を表現する五つの石造物を重ね合せて、五輪塔はできています。しかし五輪塔には大きささまざまなものがあり、形態も一様ではありません。

園内の宿場コーナー旧三澤家住宅前の休憩所附近の山際に、二基の五輪塔が深草の中で風雨にさらされながら建てられています。この五輪塔は、もと九州の大分県国東にあったものが縁があって本園に寄贈されたものです。

向って右側の大型五輪塔は、高さ78cmほどの積上げ式石塔というもので、言わば仏像の寄木造りのように、整形された石を積上げ塔形を造ったもので、わが国の石塔の大部分はこうした製作技法によるものです。左側の小型五輪塔は、高さ53cmほどの一石塔の単純素朴なもので、これこそ庶民感覚を感じさせる五輪塔と言えるでしょう。(今回をもちまして、園内の石造物案内は、終了させていただきます。)



旧三澤家住宅前の五輪塔



五輪塔

編集後記

日中はあぶら蟬に、夕暮れはひぐらしに占領された観のある生田緑地です。これだけの木立があれば当然なのですが、連日、今を盛りとばかりに精一杯鳴き続けています。でも、彼らの命のはかなさを思う時、そこに夏の終りを感じ取ってしまうのは、人間の勝手な感傷と言うべきでしょうか。まだまだ厳しい暑さが続きますが、蟬の声でも聞きながら、民家園へ散策にいらっしやいませんか。(S)